

私にも
言わせて!
第26回

広大な北の大地から
よりよい地域医療の連携を考える



北海道旭川総合振興局保健健康課長
谷田 光弘

昭和61年旭川医科大学卒業。耳鼻咽喉科を専攻。13年間耳鼻咽喉科医として病院勤務の後、重度心身障害児(者)施設に医師として勤務。平成23年6月旭川市職員として採用され、旭川市保健所で公衆衛生医師として勤務。交流人事により26年4月より現職。日本耳鼻咽喉科学会専門医。

「全体を見通すのが苦手な先生に、公衆衛生医は向いていないのでは?」3年前に保健所に勤務したときに、昔からの友人(曲者の要友・臨床医仲間)の言ったセリフがこれでした。「石の上にも…」と言いつつ3年やってみると「そう答えてからちやうど3年経ちました。」

障害をもつ方々との
出会いから

私は平成23年に公衆衛生医師としてスタートを切り3年、今年、保健所長となってからはようやく4か月経ったばかりです。25年の勤務医生活のあと、まだまだ公衆衛生活動の端緒に就いたばかりです。またどう考えても若手とは言えない年齢で、このページのタイトル「期待の若手シリーズ」私にも言わせて!」に原稿を書くのは、詐欺のような感じもしていますが、「あと一仕事でリタイアかな。」と考えているロートル医師のいままでの経過と、現在の職場で自分な

りに頑張りたいと思っていることについて少し書いてみたいと思います。

学生時代はラグビー部とボディビル部を掛け持ちし、クラブ活動に明け暮れていました。卒業後、診断から治療までのすべてに関われると考えて耳鼻咽喉科を選択し、熱心な指導医とよき同僚や先輩、職場のコメディカルの方々にも助けられて、幸い大きな失敗もなく、臨床医としてまずまず満足のいく生活を送っていました。30代後半に旭川市での開業を真剣に考えたのですが、家族の病氣(四男が胆道閉鎖症)もあり中止しました。将来の見通せない中、縁あって

重度心身障害児(者)施設に勤務することになり、その後10年以上にわたって多くの障害児(者)の方々やそのご家族と接してきました。そのときに「障害をもつ人々をもっと社会全体で支えるしくみが必要だ」と感じていたことが、市民広報にあった旭川市保健所の医師募集のお知らせに目を留めた大きな理由のひとつになったのだと思います。

3年間の保健所勤務

さて、保健所に勤務をしてからですが、実のところ学生時代は保健所実習にすら行ったこともなく、正直に言えば、保健所の医師がどんな仕事をしているかなどまったく知りませんでした。旭川市保健所長が大学時代の同期(なんとクラブも一緒)で顔見知りであったこともあり、保健所内の医師業務等を行いつつ、さまざまな事例

ごとに疫学的な考え方を教えてもらいました。また議会の対応などを含め、行政機関のしきりについても一から教えてもらい、行政組織の雰囲気もなんとなくわかったように感じています。正直なところは、いまでも自身の行政処理能力は限りなくゼロに近いままです。

今年の4月に北海道の交流人事で、旭川市保健所から名寄保健所に移ってしばらく感じたことは、なんと言っても管轄する上川北部の広大さです。東西に約55km、南北には約140kmもあり、面積は約4197km²と全国34位の福井県の面積に匹敵しています。この広大な圏域に人口は約7万人、医師数は人口10万人当たり1.51人と全国平均、全道平均を大きく下回っています(ちなみに旭川市を含む上川中部は医育大学もあり、全国平均、全道平均を大きく上

医療過疎地に展望を抱く

臨床医時代が長かったので、介護・福祉よりも医療の面に視点が偏りがちですが、地域が存続するには、①よい仕事があること ②よい教育が受けられること ③よい医療が受けられること、などが最低条件であると考えていますので、名寄保健所に在任中の目標として上川北部地域の医療体制の充実に努めたいと考えています(その過程で、介護・福祉の分野にも

連携を強めていくことをねらっています)。ちなみに上川北部地域(士別市・名寄市・上川北部5町・1村と医療的に結びつきの強い地域として北東部の3町と東部の1村を加える)面積は、約6420km²(全国20位の栃木県の面積に匹敵)、人口は約8万5千人、高齢化率は32.7%となります。

この地域における人口と高齢化率の推移について、平成32年は約7万7千人、36.7%。42年は約6万7千人、38.5%。52年は約5万7千人、40.1%と推計されており、今後も10年ごとに約1万人の人口減少と高齢化率の増加が見込まれています。

このような地方の医療過疎の圏域での県型保健所の保健所長として、医療体制の維持・充実のため

に地方・地域センター病院を中心地域に各病院・診療所等の連携をいかに強めていくべきかを考えていきたいと思っています。

各病院間のICT化、ドクターヘリを含む救急医療体制の充実、急性期医療と慢性期医療との途切れない連携、在宅医療との連携を進めること、そして医療からさらに広げて、福祉・介護との連携など「地域の住民が、年をとっても、病気になるっても、介護が必要になっても、たとえ寝たきりになっても、安心して暮らすことのできる地域」をつくりあげていくこと、それには利害関係が必ずしも一致しない多くのステークホルダーが、共通認識

をもって同じ目標に向かって歩んでいけるように調整し、交渉し、マネジメントを行うていくことが求め

られます。もし特定の個人にそのすべてが求められるとしたら、かなりの政治力、行政処理能力が必要で、私などではまったく役に立ちませんが、すでに地域の人たちから信頼を得ている保健所内の多くのスタッフとともに、「安心して暮らせる『まちづくり』のために微力ながら尽力したいと考えています。」

つい先日(6月9日)、地方・地域センター病院である名寄市立総合病院の精神科病棟の新築に際して、屋上に併設されたヘリポート(写真)を使用してドクターヘリの運用訓練が行われました。当初は模擬患者による訓練の予定が、当日になって急きょ、実際の救急患者が搬送されて来ることになり、当圏域における救急医療におけるドクターヘリの存在の重要性が示されました。

とりあえず「石の上にも3年」は過ぎました。こうした体制を整備するために、前任の保健所長をはじめ多くの人たちの努力があったであろうことを思うときに、私自身も何か一つは地域の人たちの役に立てることを行いたいと考えている

写真 名寄市立総合病院屋上に併設されたドクターヘリポート



表 上川北部地域の概況

市町村名	人口(人)	高齢化率(%)
士別市	21,238	34.2
名寄市	29,515	28.7
和寒町	3,816	40.2
剣淵町	3,508	34.9
下川町	3,569	37.7
美深町	4,819	36.8
音威子府村	795	28.4
中川町	1,778	37.3
浜頓別町	3,931	29.7
中頓別町	1,925	36.3
枝幸町	8,888	29.7
西興部村	1,142	33.1
計	84,924	32.7

人口 84,924人(全道の1.6%)
 ・H25.3.31 住民基本台帳
 面積 約6,420km²(全道の7.7%)
 ・H25.3 北海道医療計画
 高齢化率 32.7%(全道平均26.3%)
 ・H25.3.31 住民基本台帳
 対10万人医師数
 151.1人(全道218.3人)

*上川北部地域行動計画